



2021年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマザワ

コード番号 9993 URL <https://yamazawa.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古山 利昭

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐藤 慎三 TEL 023-631-2211

四半期報告書提出予定日 2021年1月12日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無: 無

四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第3四半期の連結業績 (2020年3月1日～2020年11月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	84,256	3.6	1,768	1115.9	1,705	855.9	1,140	1068.8
2020年2月期第3四半期	81,348	△1.1	145	△17.6	178	△16.3	97	△60.3

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 1,138百万円 (829.7%) 2020年2月期第3四半期 122百万円 (△47.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	104.59	104.49
2020年2月期第3四半期	8.95	8.94

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第3四半期	51,822	29,006	55.9
2020年2月期	50,284	28,162	56.0

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 28,990百万円 2020年2月期 28,146百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	13.50	—	13.50	27.00
2021年2月期	—	13.50	—	—	—
2021年2月期 (予想)	—	—	—	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2021年2月期の連結業績予想 (2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	113,000	3.0	1,700	171.0	1,800	157.7	700	—	64.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期3Q	10,960,825株	2020年2月期	10,960,825株
② 期末自己株式数	2021年2月期3Q	60,986株	2020年2月期	60,890株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期3Q	10,899,914株	2020年2月期3Q	10,896,648株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、世界経済の悪化とともに、厳しい状況下で推移いたしました。

小売業界におきましては、感染への懸念、収入減少の中、生活防衛意識の異常なまでの高まりにより、業種・業態によって需要動向が明確に分かれました。特に食品小売業におきましては、マスクをはじめとする感染予防関連商品および学校休校による内食需要の高まりを受けた生鮮食品の伸長、まとめ買い傾向による客単価の上昇により、業況は良好に推移いたしました。しかしながら、今後の感染動向、内外経済動向の見通しが難しく、取り巻く環境は依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「毎日の生活に必要な商品を新鮮で美味しく、安く提供する事により、食生活を豊かにし地域社会に貢献する」という経営理念のもと、お客様と従業員の安全を最優先に、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、従業員の体調管理体制強化、消毒・清掃の強化、身体的距離の確保、営業時間の短縮等の対策を講じながら、地域のお客様の生活を支える商品の供給、提供に努めてまいりました。そのうえで、「地域のお客様に繰り返しご来店していただける店づくり」に向け、『令和の時代に求められる店づくり』を本年度のスローガンに掲げ、全社一丸となって各施策の実行及び検証を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は842億56百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は17億68百万円（同1,115.9%増）、経常利益は17億5百万円（同855.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億40百万円（同1,068.8%増）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

スーパーマーケット事業におきましては、販売企画として、引き続き「生活応援セール」や「水曜均一祭」を実施いたしました。両企画では食料品を中心に買い得商品を多数揃え、販売を強化してまいりました。また、当社が加盟するニチリウグループ（日本流通産業株式会社）のプライベートブランド商品である「くらしモア」や、連結子会社の「株式会社サンコー食品」による当社グループオリジナルの惣菜及び日配商品の拡販を積極的に行ってまいりました。

営業面におきましては、集客強化及び店舗活性化のため、売場づくりの改革と、販促イベントの多様化に取り組みました。売場づくりの改革といたしましては、「今週の一品」と銘打ち、バイヤーこだわりの商品を週ごとに設定、全店で販売を徹底し、よりお客様にご支持いただけるよう努めました。また、2020年3月より加工食品や日用品を中心に商品を厳選した「期間限定スペシャルプライス」商品を販売し、買上点数増を図りました。販促イベントの多様化といたしましては、日曜日のポイント10倍セールに加え、平日のポイント10倍セールの実施、また、青果部門では月初めに「大青果市」を開催し、野菜・果物をお値打ちな価格で販売いたしました。さらに、当社グループ独自の電子マネー機能付きポイントカード「にこかカード」の利用拡大のため、チャージ機利用による特典付与等の販促活動を継続的に実施いたしました。

また、株式会社ヤマザワにおきましては、2020年6月より、移動スーパー「とくし丸」事業を開始いたしました。移動スーパー「とくし丸」は、店舗での買い物が難しいお客様の利便性向上を目的とし、販売パートナー（個人事業主）が商品を車に積み込み、依頼された方のご自宅まで伺い、お買物をいただくサービスです。取扱品目は500品程度で、加工食品や日用品の他、チルド商品やアイスクリーム等も取り扱っております。2020年6月に山形県山形市に第1号車、9月に山形県東置賜郡高島町に第2号車、11月に山形県鶴岡市に第3号車の運行を開始いたしました。いずれの運行エリアにおきましても、買物困難者が増えており、スーパーの出店が望まれている地域でもありました。特に高齢者の方よりご好評を得ており、第3号車の運行エリアでは初めて老人ホームへのサービスも行ないました。今後も他エリアにての運行を随時増やしていく予定です。

設備投資といたしましては、よねや商事株式会社におきまして、2020年3月に「大曲中央店」（秋田県大仙市）を新規開店いたしました。また、株式会社ヤマザワにおきまして、同年5月に「鶴岡茅原店」（山形県鶴岡市）を、既存店舗の「鶴岡宝田店」（山形県鶴岡市）を閉店して、近隣地へ新設移転いたしました。旧店舗である「鶴岡宝田店」と比較して拡充した売場面積を活用し、売上規模も拡大しております。具体的な取組みとしては、ストックキッチン・フレッシュサラダゾーンの展開強化、地元鶴岡市でなじみの商品の豊富な取り扱いや地場野菜コーナー等の販売強化、インスタペーパーカー及びイトインコーナーの新設等を実施し、地域のお客様からより一層の支持をいただける店づくりを行いました。

既存店の活性化といたしましては、株式会社ヤマザワにおきまして2020年4月に「鶴岡店」（山形県鶴岡市）、8月に「成沢店」（山形県山形市）、10月に「村山店」（山形県村山市）の改装を実施いたしました。なお、株式会社ヤマザワにおきまして、2020年6月に「泉ヶ丘店」（宮城県仙台市）、7月に「高砂店」（宮城県仙台市）、8月に「谷地店」（山形県西村山郡河北町）、「愛島店」（宮城県名取市）、9月に「長町南店」（宮城県仙台市）を閉店いたしております。

以上によりまして、株式会社ヤマザワの店舗が山形県内41店舗、宮城県内18店舗、よねや商事株式会社の店舗が秋田県内10店舗となり、スーパーマーケット事業の合計店舗数は69店舗となりました。

この結果、スーパーマーケット事業の売上高は738億60百万円(同3.6%増)となりました。

ドラッグストア事業におきましては、地域のお客様の「生活の質」の向上に貢献し、快適な生活をサポートすべく、販促活動の強化に取り組むとともに、トータルコストリダクションを推進し、全社一丸となって経費削減活動に取り組みました。

設備投資といたしましては、2020年5月に「ドラッグ鶴岡茅原店」(山形県鶴岡市)を、既存店舗の「ドラッグ鶴岡宝田店」(山形県鶴岡市)を閉店して、近隣地へ新設移転いたしました。ドラッグストアの強みを活かし、医薬品の買回り向上および販売強化、介護・衛生用品の品揃え拡大、接客・カウンセリング力強化等、幅広い世代に対応できる魅力的なお店づくりに取り組みました。また、同年7月には「調剤薬局吉成店」(宮城県仙台市)を開店いたしております。なお、2020年7月に「ドラッグ鶴岡店」(山形県鶴岡市)、「ドラッグ愛島店」(宮城県名取市)、8月に「ドラッグ谷地店」(山形県西村山郡河北町)を閉店いたしております。

この結果、ドラッグストア事業の売上高は103億91百万円(同3.2%増)となりました。

その他事業におきましては、惣菜及び日配商品を開発製造して当社グループへ納品しており、スーパーマーケット事業との連携を密にし、安全・安心で美味しいオリジナル商品の開発を行ってまいりました。

この結果、その他事業の売上高は4百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ15億38百万円増加し、518億22百万円となりました。これは主に、現金及び預金と建物及び構築物(純額)が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ6億94百万円増加し、228億15百万円となりました。これは主に、未払法人税等が増加したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ8億43百万円増加し、290億6百万円となりました。なお、自己資本比率は55.9%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の連結業績予想につきましては、2020年10月8日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました内容から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,178	7,775
受取手形及び売掛金	749	791
商品及び製品	4,129	4,684
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	97	100
その他	1,461	1,336
貸倒引当金	△1	—
流動資産合計	13,615	14,688
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,883	15,588
土地	13,259	12,966
その他(純額)	3,164	3,385
有形固定資産合計	31,307	31,940
無形固定資産	1,243	1,125
投資その他の資産		
その他	4,121	4,119
貸倒引当金	△4	△51
投資その他の資産合計	4,117	4,067
固定資産合計	36,668	37,133
資産合計	50,284	51,822
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,875	7,962
短期借入金	4,550	3,300
1年内返済予定の長期借入金	156	167
未払法人税等	61	524
賞与引当金	321	—
役員賞与引当金	0	0
ポイント引当金	656	656
商品券回収損失引当金	75	55
その他	4,727	6,228
流動負債合計	18,425	18,894
固定負債		
長期借入金	410	737
退職給付に係る負債	386	416
資産除去債務	1,165	1,167
その他	1,733	1,600
固定負債合計	3,696	3,921
負債合計	22,121	22,815

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,388	2,388
資本剰余金	2,208	2,208
利益剰余金	23,590	24,435
自己株式	△69	△69
株主資本合計	28,117	28,963
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	14
退職給付に係る調整累計額	17	12
その他の包括利益累計額合計	29	27
新株予約権	15	15
純資産合計	28,162	29,006
負債純資産合計	50,284	51,822

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
売上高	81,348	84,256
売上原価	59,139	60,138
売上総利益	22,209	24,117
販売費及び一般管理費		
給料	8,093	8,124
賞与引当金繰入額	627	612
役員賞与引当金繰入額	11	0
退職給付費用	81	80
ポイント引当金繰入額	654	656
減価償却費	1,809	1,844
貸倒引当金繰入額	0	—
その他	10,785	11,030
販売費及び一般管理費合計	22,064	22,349
営業利益	145	1,768
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	7	7
データ提供料	13	20
その他	36	46
営業外収益合計	59	75
営業外費用		
支払利息	9	11
貸倒引当金繰入額	—	47
賃貸借契約解約損	11	64
その他	5	14
営業外費用合計	26	138
経常利益	178	1,705
特別利益		
固定資産売却益	128	296
特別利益合計	128	296
特別損失		
固定資産売却損	—	9
固定資産除却損	14	202
減損損失	—	161
投資有価証券評価損	67	—
特別損失合計	82	374
税金等調整前四半期純利益	224	1,626
法人税、住民税及び事業税	98	619
法人税等調整額	28	△133
法人税等合計	126	486
四半期純利益	97	1,140
親会社株主に帰属する四半期純利益	97	1,140

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益	97	1,140
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	3
退職給付に係る調整額	△0	△5
その他の包括利益合計	24	△2
四半期包括利益	122	1,138
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122	1,138
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積もり)

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、当連結会計年度末にかけて徐々に感染拡大前の経営環境となるものと仮定して、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積もりを行なっております。

なお、これらの会計上の見積もりに用いた仮定は、第2四半期報告書の追加情報の記載から重要な変更はありません。